

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0970300273
法人名	社会福祉法人星風会
事業所名	星風会グループホームこすもす
所在地	栃木県栃木市惣社町121-3 (電話) 0282-27-2215

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年2月25日	評価確定日	平成20年3月25日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年5月1日、平成16年6月1日、平成17年8月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	9	常勤4人, 非常勤5人, 常勤換算6.2人	
	9人	常勤3人, 非常勤6人, 常勤換算6.2人	
	9	常勤3人, 非常勤6人, 常勤換算6.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造亜鉛メッキ金鋼板葺
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	こすもす—10,200円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代—実費 ・おむつ代—実費 ・光熱水費—12,000円 ・施設維持管理費—4,040円 	
	こすもす2号館—8,500円			
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	340円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	月額1,000円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年2月1日現在)

利用者人数	27名	男性	7名	女性	20名
要介護1	6名	要介護2	11名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低 72歳	最高	97歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	星風会病院星風院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「こすもす」は和を基調とし、「こすもす2号館」は洋を基調としており、外観、内装など、それぞれに趣が異なっている。法人全体でISO認証を受けており、記録様式やマニュアルなどは統一され、整理されているが、入居者の状況などの違いも踏まえて、3ユニットそれぞれに良い意味で異なった運営をしている。ホームのある敷地は広大で、敷地内にはケアハウス、少し離れた位置に老人保健施設、デイサービスセンター、訪問看護ステーションなどがある。同法人の訪問看護ステーションと契約をして医療連携体制加算の指定を受けており、系列法人の病院の医師が月に2回往診してくれる体制にもなっている。関係者と連携しながら入居者の最期を支え、ホームで看取りをした例がある。入居者の要介護度が高くなってきている現実もあるが、内部研修でその時の課題を踏まえたテーマを取り上げながら、職員はその人らしい生活の支援に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価実施後は外部評価結果を参考にしながら、ホームの取組みを振り返り、職員それぞれの意見を出し合い、ホームとしての課題意識を共有し、改善に努めている。食事は業者委託をしているが、入居者と一緒に食事をつくる日なども設けている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員間で項目を分担するなどして取り組み、各ユニットの計画作成担当者が取りまとめ、管理者が確認した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は現在までに開けていないが、市への参画依頼も含めて委員選定がされており、今後第1回目の会議を開催する予定である。市との関係は、運営的なことは管理者が、入居者に関することなどは各ユニットの計画作成担当者が窓口となって報告、相談などをして連携に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に報告したり、必要に応じて電話で報告や相談をしている。預り金は毎月清算し、家族に報告している。ホーム内にホーム行事の写真などを飾り、アルバムなども用意している。職員の変更があったときにはその都度紹介している。以前は、独自の広報誌も作っていたが、今は作成していない。家族の訪問の際には声をかけて要望や意見を言ってもらえるように働きかけている。「ご要望情報」の様式があり、要望等があったときにはホーム内で共有できる仕組みがある。ホームの行事の際には家族にも参加を呼びかけている。社会福祉法に基づく苦情処理体制を整えており、重要事項説明書に明記している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の時に近所の方と挨拶をしたり、遊びに来てもらえるよう声をかけたりしている。また、地域行事に参加したり、地域の商店、公民館などに出掛けたり、併設施設も交えてのこすもすフェスタなどに地域の方を招いたりしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としてISO認証を受け、法人の品質方針として高品質サービスの提供、地域への貢献などを謳っている。また、それぞれのユニットごとに個別具体的な目標を設定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の品質方針、ユニットごとの目標を事務室等に掲げて共有し、目標の実施に向けての実践をしている。	○	ユニットごとの目標は具体的で分かりやすく、達成状況の確認もされているが、今後更に、職員間の意識合わせという意味でも、ホームがどうありたいか、どのようにしていきたいかなどを職員間で話し合い、ホームあるいはユニットごとにまとめていくことに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時に近所の方と挨拶をしたり、遊びに来てもらえるよう声をかけたりしている。また、地域行事に参加したり、地域の商店、公民館などに出掛けたり、併設施設も交えてのこすもすフェスタなどに地域の方を招いたりしている。	○	運営推進会議の体制が整い、自治会の方にも委員になってもらって今後会議が開かれていく予定であり、地域との交流が更に活性化されることを期待したい。また、地域で実施している文化祭に作品出品なども考えているので、入居者の張り合いという意味でも実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価実施後は職員で話し合いを持ち、改善に活かせるように努めている。運営推進会議が開催されるようになったときには、外部評価の結果報告もする予定である。今回の自己評価は、職員間で項目を分担するなどして取り組み、各ユニットの計画作成担当者が取りまとめ、管理者が確認した。		

星風会グループホームこすもす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今のところ開催されていない。運営推進会議の委員選定や市との調整がすみ、具体的な会議の実施準備が整った。	○	運営推進会議の開催を通して、ホームの質の向上に繋げられるような効果的な会議運営をしていくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営的なことは管理者が、入居者に関することなどは各ユニットの計画作成担当者が窓口となって市への報告、相談など、連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に報告したり、必要に応じて電話で報告や相談をしている。預り金は毎月清算し、家族に報告している。ホーム内にホーム行事の写真などを飾り、アルバムなども用意している。職員の変更があったときにはその都度紹介している。以前は、独自の広報誌も作っていたが、今は作成していない。	○	法人全体としてホームページの作成なども検討されている。プライバシーにも配慮しながら、入居者の日々の生活を知らせる機会を増やしたり、職員の変更があったときにその都度家族に知らせる方法をつくるという意味でも、ホームページや広報誌の検討・作成に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の際には声をかけて要望や意見を言ってもらえるように働きかけている。「ご要望情報」の様式があり、要望等があったときにはホーム内で共有できる仕組みがある。ホームの行事の際には家族にも参加を呼びかけている。社会福祉法に基づく苦情処理体制を整えており、重要事項説明書に明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内には社会福祉施設や介護保険事業所があり、職員は異動希望を出せるようになっている。管理者は、馴染みの関係を大切にする観点から事業所間異動はあまりしないように考えているが、他のユニットでの応援等も考えてユニット間異動をすることもある。職員が変わる場合には、他の職員がフォローして入居者に影響が出ないように配慮している。		

星風会グループホームこすもす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は参加希望を募り、勤務調整をするなどして参加し、参加後は他の職員に伝達したり、資料を配布するなどしている。また、ユニットごとに認知症高齢者の接し方、ターミナルケアなどの勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。管理者は同業者との交流の必要性を感じている。	○	職員の向上心を高めたり、同業者ならではの悩みを相談できる仲間づくりを支援するという意味でも、市内の同業者などに少しずつ働きかけながらネットワークづくりをしていくことに期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日帰りや泊りを含めた体験利用を取り入れて、実際にホームの様子を見てもらってから入居してもらう仕組みをつくっている。入居後は、入居者間の関係づくりにも配慮しながら、ホームでの生活に徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴を把握し、入居者の出来ることを一緒にしたりしながら共に生活をつくっていくことを大切にしている。入居者の得意なこと（編み物、書道、短歌など）を職員や他の入居者に教えてもらう機会づくりなども考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話などから希望や意向を把握したり、困難な場合には家族の協力を得たり、生活歴などから本人本位の支援ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意向を踏まえ、生活記録なども参考にしながら、ケース会議で職員からも意見を求め、本人本位の介護計画作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居直後は1ヶ月の暫定計画を作成し、当初の生活の様子を見ながら計画の見直しをしている。その後は計画期間ごとに定期的な見直しを行い、入居者の状態に変化があったときなどには随時見直しをしている。	○	アセスメント様式の工夫を考えていたり、訪問看護事業所の看護師や家族にケース会議に参加してもらうことなども考えている。より本人らしい生活を支えるための計画作成を追求していくことに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地続きで同法人の訪問看護事業所があり、そこを契約して医療連携体制加算の指定を受けている。外出などは事前にある程度計画はしているが、天候をみて日にちを変更したりと柔軟な支援に努めている。		

星風会グループホームこすもす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にこれまでのかかりつけ医を確認し、入居後の受診について相談している。系列法人の病院をかかりつけ医にする方が多く、法人内の病院からは月2回の往診もある。他の病院を受診する方については、家族と連携しながら適切な医療が受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書でもホームでの対応を明記し、対応している。実際に入居者の最期を支え、ホームで看取った例がある。内部研修でターミナルケアを取り上げたりもしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや態度など、時には職員同士で注意しあいながらプライド、プライバシーを損ねないような支援に努めている。記録等の管理も適切に行い、入居者と話をする際に、他の入居者や入居予定者の個人的なことに触れないようにするなど個人情報の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出などの行事については、安全対策という意味でもある程度事前に計画して管理者に報告しているが、その他のレクリエーションなどは特に計画化せず、その日の状況によって行うなど、一人ひとりのペースに合わせた生活の支援に努めている。		

星風会グループホームこすもす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と一緒と同じ物を食べ、必要に応じて声かけをするなどしていた。日常の調理は業者委託をしているが、下膳などは入居者も一緒に行っていた。好き嫌いを把握し、苦手なものには代わりのものを用意するなどしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おき、週に3回は入浴できるように支援している。希望によって入浴時間帯を変えたり、入浴順番を変えたり、入浴剤を用いたりしながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食後の後片付け等の家事や菜園づくり、散歩や買い物、習字や塗り絵、カラオケなど役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良いときに散歩をしたり中庭でお茶を飲んだり、菜園で作業をしたり、近所の公園に出掛けたり、行事的な外出を取り入れたりしながら外出の支援をしている。馴染みの美容室の利用など家族の協力を得ることもある。以前は泊まりで出掛けたこともある。	○	外食や外出の機会を増やしたり、グループ分けして出掛けやすくする工夫をしたり、家族が参加しやすいような機会づくりも考えているので、外出支援の充実が図られることを期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上、玄関に鍵を掛けているが、日中は基本的に鍵をかけていない。玄関にセンサーがあり、また玄関部分を見守りやすい造りにもなっている。		

星風会グループホームこすもす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定しての職員の召集訓練も取り入れている。地域の消防団に協力を得られるようにしている。入居者用の水、缶詰などの非常食の備蓄もしている。	○	避難訓練に近隣の方の参加を呼びかけることも考えている。消防団との連携を図ってはいるが、いざという時にホームが助けてもらったり、あるいはホームが地域の方を助けたりということも期待できるので、地域の方々との連携を図っていくことにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の管理のもとバランスの取れたメニュー提供がなされ、また、月1回は体重を測定し、必要に応じて食事量の調整などもしている。水分は入居者の好みのものを提供するなどの配慮をしながら適切な量が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「こすもす」は和の雰囲気、「こすもす2号館」は洋の雰囲気とそれぞれに表情が異なっている。訪問日には季節柄、雛飾りがされていた。入居者の作品や写真なども飾っている。日差しなどはカーテンで調整している。気になる大きさの音、空気のだよみ等はなかった。「こすもす」にはリビングテーブルの隣にソファがあり、「こすもす2号館」では事務スペースも開放して入居者が思い思いに過ごせる場所の提供にも配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「こすもす」は和室、「こすもす2号館」は洋室になっているが、和室でもベッドを使ったりとその人に合わせた使い方をしている。入居する際に、使い慣れたものを持ってきてもらうように話をしており、仏壇などを持ち込んでいる方もいる。居室にはテレビアンテナの配線がないが、ケアの配慮上、居室にはテレビを置かないことを方針としていることを説明している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。